内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2003年5月）

◎内海総局長から

今回の理事会は、一部の人にとっては、事務総局長を懲らしめることができ、「してやった」と喜んでいるようですが、ITUの歴史から見ると、ITUの時代の流れに対応する能力をさらに奪った進歩改革に逆噴射するものでした。情報社会サミットを前に全精力を総動員しなければならないときに、一部の人たちの利益や関心を満たすために、予算審議の延期、事務局に対する過剰な監督、過剰な報告義務等を強いて、サミットの準備さえも危うくさせる全体像を見失ったものでした。正しいことや合理的なことが通らず、非合理がまかり通る国際政治の渦を、またも経験させられることになりました。どうしてわれわれ日本人はこうもお人好しなのでしょうか？

◎5月の事務総局長の主な動向

5月5～16日　ITU理事会（ジュネーブ、ITU）

昨年の全権委員会議で採択された財政計画を踏まえた2004－05年予算案の審議、また世界情報社会サミットに向けたITU活動の審議、さらに“ITUの運営見直しに関する専門家会合”（GoS）からの勧告の審議もあり、多くの重要課題が議論される理事会となりました。最近の理事会では、事務局の運営の詳細部分、いわゆるマイクロマネジメントに議論が集中する傾向があり、大所高所からの議論が少なくなってきている傾向があります。そこで、開会式において、近年の電気通信業界の状況を反映して分担金などのITUへの入金が減少しているなか、ITUはどのような役割を果たすべきなのか、大きな指針を議論すべきであることを説きましたが、効果はぜんぜんありませんでした。

○ITU運営見直しの勧告

GoSから、すぐにでも実施すべき短期的対応に係る勧告、来年度の理事会で採択すべき中期的対応に係る勧告、2006年の全権委員会議で採択すべき長期的対応に係る勧告と分類された勧告が報告されました。そのうち、短期的対応に係る勧告について審議が行われ、予算準備プロセスの透明性を増すための見直し、内部監査機能の強化、ITUテレコムのプロジェクト指向への組織見直しなど12の勧告が採択されました。

ITUの会議における通訳や翻訳の改善に関する勧告、文書や出版などの機能統合に関する勧告など、コスト削減が期待できる勧告もありましたが、特に言語問題については、一部の国々が敏感に反応して中期的対応に係る勧告に先送りされることとなりました。

○WSIS準備に向けたITUの活動

多くの理事国から、WSIS準備プロセスを通じてITUのプレゼンスを高め、WSISで採択される行動計画の実施にあたっては大きく貢献すべきである。デジタル・デバイド対策など、これまでのITUの経験を活かし、各関係者をリードすべきなど、積極的な発言が続きました。

議論の結果、現在活動している理事会のWSIS作業班を通じて、ITUからWSISへの入力の検討を続けていくことが理事会決議としてまとめられました。決議では、事務総局長がデジタル・デバイドなど、これまでのITU活動状況をまとめた情報文書を作成し理事会WSIS作業班におけるPrepcom3の入力の検討に資すること、また、WSISで採択される行動計画の実施において、貢献できるITU活動を事務総局長が調査して周知することが定められています。

○2004－05年ITU予算案

昨年のマラケシュ全権委員会議において、加盟国から年間あたりの分担金総額が約7億円（加盟国からの分担金全体の6.5%、ITU全入金の約4%）減少し、2005年からの6カ国言語の導入、地域事務所の強化などが採択されるなか、職員費用の一律5%削減や事務総局支出の5%削減など、多くの条件を付した財政計画が採択されました。

この財政計画を基本として、ITU事務局において具体的に削減可能なポストを洗い出し、事務総局や各セクターの全体支出を抑えるなど厳しい部内調整を行いました。インフレーションや給与の定期昇給も考慮すると、実質、前会期の支出から10%以上削減しています。

しかしながら、今回の理事会では、この予算案の審議が完了できず、今秋に追加理事会を開催して予算案を再度審議することとなりました。

最近の電気通信関連事業の世界的低迷から、各理事国ともITUの財政状況がかなり厳しくなっていることは承知しつつも、WSISの成功、途上国開発支援、標準化や周波数分配の効率化などITUに期待される活動が多くなっているのも事実であり、秋までに時間をかけて予算案を検討することとなりました。

以上のほかにも、ITR（国際電気通信規則）、インターネットのドメインネームなど多くの項目が、2週間と限られたなか議論されました。

5月30日　Mrs.Calm-Ray スイス外務大臣との会談（ジュネーブ）

今年12月のWSISの準備状況に関する意見交換としてMrs.Calm-Rayスイス外務大臣と会談しました。元ジュネーブ州大統領でWSIS特別大使のスゴンド氏、スイス連邦協力開発長官のフースト氏も同席しました。これまでのスイス政府からのWSIS準備に対する協力に感謝するとともに、G8の機会を利用した各国元首へのWSIS参加へのさらなる働きかけなどを相談しました。スイス連邦政府は、既に各国元首への働きかけは始めていましたが、さらに機会をとらえ、WSISの普及啓蒙および準備を進めていくことを確認しました。